

加工人(職工)の信念

工場主と職工間

工場主訪問録

工場内の衛生及治療應急手當法

工場主より徒弟養成の意見

友禪界の進歩

友禪の現状及其他の記事掲載

學說 實地染料化學

美談奇談注意講談の一部等掲載

一口噺 狂句俳句和歌等掲載

なれば其所に至り各篤志家の御援助を求む

京都府伏見町聚樂二丁目六百八十地

振替口座大阪六參八壹六

都華友工會本部 車戸喜太郎宛に

投書歡迎 學說 實地說 染料化學

一口噺 美談 奇談 注意談

俳句

情歌

狂句 投書締切は毎月八日限とす發表一ヶ月後とす

本誌愛讀の御方は至急代金相添御申込相成度

候廣告等の場合は御一報次第參上仕可候

日曜にけ餌掘りして

# 家計を助けて

表彰された孝行兵士

伊藤一等卒の美談

赤坂歩兵一聯隊で數日前孝行兵士として表彰された同聯隊第七中隊一等卒伊藤初五郎君三の身の上を聞くと涙ぐましい人情の感激に打たれる

◆初五郎君の實家は府下羽田で繼父庄太郎(吾)は漁業を營んでゐたが實母留(吾)の三年に餘る慢性腸加答兒に自棄酒ばかり呷り酔が昂じると立店も出来ない實母を打つたり蹴たりして虐待した斯うした繼々しい家庭は初五郎が入營以來愈々貧しく時には其日の生活にさへ困る程めさし初五郎は隊より支給の小遣で電車賃に宛て、毎日曜日毎に歸宅し母を勞はり父を勵まし乍ら魚釣餌を掘て之を賣り儲き家計を補はうとしてゐた心を籠

めた初五郎の真心を折衝警察から懇々不心得を諭された庄太郎は豁然と

◆前非を悔い 今では實しい中にも一家團樂

初五郎の外出日を二人は指折り數へて待ち盡

してゐる之もそれも初五郎のお蔭です——さ

ういつて庄太郎は我子の孝行を褒めてゐるが

今では附近一帶初五郎の孝心を誰知らぬもの

もない軍隊でも上官から朋輩の氣受けよく初

年兵に親切なので「伊藤一等卒殿」と兄の如く

◆敬まはれて ゐるかりそめの休み時間にも

上官の靴を磨いて置くといつた心遣ひに今で

は聯隊の模範兵士となり機會があれば除隊さ

して遣りたいと上官から眼を付けられてゐる

とは稀らしい孝行美談である

## ④ 妙な挨拶

「い、按配にお天氣になり

⑤ 左様でございます、澤山も降りませんで結

構でございますね」

「でも梅雨の間は降りませんと困りますね、

又お米が高くなりましたね」

「左様でございますね、梅雨はやつぱり降り

ませんと困りますね」

「でも何でございますね、お天氣の方が結構

でございますね」

「エ、全くでございますよ、やはりお天氣の

方が結構でございますね」

「ほんとうは降つた方がいゝのですけれどね」

「左様でございます、降つた方がいゝのです

けれどね」

京都府伏見町聚樂二丁目六八〇地  
編輯人兼發行 車戸喜太郎  
人及印刷人  
發行所 都華友工會本部  
伏見聚樂二丁目六八〇地